

清新中学校だより 清風

令和5年1月10日
第202号

「オアシスの老人」に思うこと

校長 江戸谷 智章

明けましておめでとうございます。新たな年を迎え、生徒たちも決意を新たに令和5年の第一歩を踏み出していることと思います。本校といたしましても、来たるべく進級や進学、また新たな社会に向けて最大限の支援をしてまいります。本年もどうぞよろしくお願ひ申し上げます。

さてこの冬休み、ある本を読んでいたら次のような昔話が目にとまりました。少々考えさせられたのでこの場をかりて紹介したいと思います。

『ある二つの町にはさまれたオアシスに、一人の老人が座っていました。そこへ通りかかった一人の男が、その老人に次のような質問をしました。「これから隣の町に行くのだが、どんな町なんだ？」。老人はこれに答えることはなく、逆にその男に、「あなたがいた町は、どんな町だった？」と尋ねました。その男は「たちの悪い人が多くて汚い町だ。だから隣の町に行こうと思っている」と迷惑そうに答えると、その老人は「あなたが行こうとしている隣の町も、たちの悪い人が多くて汚い町だろうよ」と答えました。

しばらくすると、先ほどの男と同じ町から、また別の男がやってきました。その男も老人に同じ質問をしました。「これから隣の町に行くのですが、どんな町でしょうか？」。老人はこれには答えず、「あなたがいた町はどんな町だった？」と聞き返しました。その男は、「親切な人が多くてとてもきれいな町ですよ」と、にこやかに答えました。するとその老人は「あなたがそう思うなら、隣の町も親切な人が多くてとてもきれいな町だろうよ」と答えました』(注)。

この話は「オアシスの老人」という寓話です。多くの昔話には様々な知恵や教訓がかくされていますがこの昔話も例外ではありません。通りがかりの二人の男は同じ町に住んでいたにも関わらず、一人目の男は、悪いところばかりを探しては、しかめっ面をして自分の不幸をなげいています。おそらくこの男に親しみを持つ者はそう多くはいないように思います。一方二人目の男は、町の良いところに目を向けていて、とてもにこやかでいます。こういう人ですから、この男の周りには親切な人が集まってきているのかも知れません。こういったことからこの昔話は、物事はそれを見る人がどういった姿勢や態度でいるかで見え方も変わってしまい、意識をして視点を変えて物事を見ようとしない限り、いつまでも見え方は変わらないということをいっているのだと思います。

上記の昔話ほど極端ではないまでも、同じようなことをしていたのに、その感じ方や捉え方が自分とは異なっていたという経験をしたことはないでしょうか。花や星、夕日を見てとても綺麗だと感動できる人とそうではない人、問題が生じた時に、原因を追求する人と対応策を講じようとする人、未知の課題に、できない理由を探す人とわずかな可能性でも追求しようとする人、大きな大会を前にポジティブに考える人とネガティブに考えてしまう人、等々。

一度わき上がった感情のすべてを疑う必要はないまでも、否定的な感情(怒り、悲しみ、恥、不安、嫌悪など)はことさら注意が必要に思うのです。恥ずかしながら私など、自分に不都合なことや困ったことが生じると、自分を守るために必要以上に攻撃的になったり、また時には、「こうでなくてはならない」、「これ以上どうにもできない」と思い込んで八方塞がりになり、思考が止まってより閉鎖的になってしまいがちです。物事を意識をして上から下からと視点を変えて見ることで、これまで考えが及ばなかったことに気づき、結果、選択肢も増えていくことはわかっているのに・・・。

何かに思い悩みどうにも解決策が見い出せなくなった時、あえて自分の思考のクセを意識し別の視点を探ってみることで、これまでの流れを変えることができるかも知れません。「右か左か」、「0か100か」、「好きか嫌いか」といった二者択一の状況に陥(おちい)った時こそ、その真ん中に答えはないのかを探れる自分でありたい、これが今年の私の目標です。

★紙面の関係上、「1月の行事日程」は学校ホームページに掲載しております。ご確認ください。

(注)『ものの見方が変わる座右の寓話』戸田智弘著(ディスカバー・トゥエンティワン)から引用





保護者の皆様へ

教育長年頭メッセージ

謹んで新春のお慶びを申し上げます

新しい年、令和5年が始まりました。昨年も、新型コロナウイルス感染症の影響により、様々な教育活動に制限があった中、保護者の皆様には、本市の教育活動にご理解とご協力をいただき、ありがとうございました。

さて、昨年末に日本中が歓喜の渦に包まれた「サッカーワールドカップ カタール大会」。PK戦の末に勝利を逃したクロアチア戦の後、人々の会話やニュースから聞こえてきたのは、悲願のベスト8進出を果たせなかったことを惜しむ声以上に、監督や選手の活躍に対する感謝や感動の声でした。それは、あらゆる状況を想定して厳しい練習を積み重ねる姿、最後まで諦めない意志の強さ、強豪相手でも気後れしない精神力、監督と選手、スタッフが一丸となって挑むチームワークなど、私たちの毎日の生活につながるヒントが数多く散りばめられていたからかもしれません。

世界に目を向ければ決して明るい出来事ばかりではなく、目を覆いたくなるような悲しい出来事も多くあったからこそ、新しい明日に一歩踏み出すための知恵や勇氣、そして応援は、何よりも私たちの心をあたたかく包み込んでくれたと感じています。

今年の干支は、「卯」です。兔の跳躍する姿が「飛躍」や「向上」を象徴するものとされ、卯年は新しいことに挑戦するのに適した年とされています。その意味において、現在の学習指導要領で目指している、学校で学んだことを人生や社会に生かそうとする力、生きていく中で役に立つ知識や技能、予測困難な時代においていかなる状況にも対応できる思考力・判断力・表現力等を身に付けるのに、ふさわしい年と言えます。ぜひ、ご家族と一緒に、新しい年に挑戦することを話し合ってみてください。

まだまだ制約のある生活は続きそうですが、今年も、ご家庭と学校とが、共に子どもの良さや成長を認め、喜ぶことができる一年となることを願っております。

～新年のスタートに、ご家庭で話をしましょう～

① 新年の目標や将来の夢について話し合しましょう。

1年の目標や将来の夢について話し合ってみましょう。そのために今できることは何か、考えてみましょう。小さな目標の達成の積み重ねが自己肯定感を高めることにもつながります。

② 生活習慣や学習習慣について話し合しましょう。

栄養バランスのとれた食事、早寝早起き、家庭学習の習慣、テレビや動画の視聴、ゲームやスマートフォンの適切な使い方などについて、ご家庭で確認したり、話し合った内容に基づいたルールを作ったりするなど、再度お子さんと考えてみましょう。

相模原市教育委員会 教育長 渡邊 志寿代

